

葦 健 第 368 号  
令和 8 年 2 月 26 日

地区長・組長 各位

葦崎市長 内 藤 久 夫  
(公印省略)

葦崎市愛育会愛育だよりの回覧について (依頼)

葦崎市愛育会愛育だよりの回覧について葦崎市愛育会会長より依頼がありました。  
愛育会活動周知のため組回覧していただけますようお願いいたします。

<お問い合わせ>  
葦崎市愛育会事務局  
健康づくり課 保健指導担当 壺屋、松澤  
0551-23-4310 (保健福祉センター)

## 組回覧



← 韮崎市公式HP  
愛育班のページも  
チェック!!

# 愛育だより



韮崎市第401号  
令和8年3月発行

## 韮州市の皆さん!

愛育会では、地域の皆様への「声かけ」「見守り」を通して、  
子どもから高齢者の方までの健康づくりのお手伝いをしています。

今年度行った活動を紹介します!



韮崎市愛育会会長あいさつ

## 「愛育」を知っていますか?

愛育班員と呼ばれる人は、令和5年度までは各地区に2名、市全体では182名いましたが、「自治体改革検討委員会」の提言をうけて、大幅に縮小することになりました。令和6年度からは、各町2名、市全体で23名となり、町ごとの「ふれあい教室」も休止しました。班員が一気に減少し活動も市に集約されることになりました。

少子化により「近所や地域で乳幼児を見かけない」という、班員からの声もあります。でも、市で開催する乳幼児健診や教室では、たくさんの赤ちゃんが集まってきます。そして、その赤ちゃんが数年後には小学生、中学生へと育っていきます。

「あの子もこの子もみんなの子」の精神は、「愛育」の基礎となっています。それを基本に韮崎市愛育会は活動しています。

愛育会会長 山本 幸子



山本会長(前列左側)  
R7.4月愛育会が  
ベビーファースト宣言をしたときの一枚

## 定例会

定例会は、年間7回開催、研修と情報交換や意見交換の場です。最初の研修では、愛育会の活動の歴史と時代の変化に伴う目的の変遷を学びました。愛育のこころの第一歩、「声かけ・見守り」を通して地域の方々と安心して暮らすコミュニティ作りを実践します。



## 矢崎きみよさんのビデオを見て

班員研修として、『あの子も、この子も、みんなの子』矢崎きみよ氏の愛育活動を記録したDVDを鑑賞しました。母子が大切にされなかった時代に、「声かけ」や「見守り」を通して助け合っていたことを知ることができ、自分の子どもや孫だけでなく、近所や地域の子どもさんやお孫さんも同じように大切だと感じました。私も自分の孫の面倒をみています。お年寄りも含め、声かけ・見守りを心がけていきたいと思えます。

## 防災研修を受けました

昭和町愛育会会長・女性防災ネット昭和の廣瀬はるみ氏による、防災研修に参加させて頂きました。地震発生時には下水道が破損している可能性があるからお風呂の水を使ってトイレに流してはいけない事、ローリングストックの大切さ、ビニール袋を使ったご飯の炊き方など、自身の知識を深める事ができました。





## 認知症サポーター養成講座

認知症ケア上級専門士の森彰司先生の講座を受けました。高齢化社会の現在、認知症が増加傾向と知り、将来的には私達家族も？と考える機会になりました。講座終了後には認知症サポーターの証としてオレンジリングを頂き、認知症について正しく理解し偏見を持たず温かく見守る事ができる応援者でいたいと思いました。



## 「にら☆ちびフェスティバル」

愛育会として、工作ブースをお手伝いしました。雨にも関わらず会場内は熱気と活気と人が交錯する位に大盛況でした。子供と接する機会が減っていましたが親子で楽しそうに工作をする姿にほっとしました。子供たちのワクワク・キラキラした笑顔が印象的でたくさんの親子連れの方々と触れ合えて幸せな時間でした。また地域での声かけを心がけていきたいと思えます。



## ママのためのととのうルーム

産後10か月未満の母と子が対象の心身を整えるための教室です。痛みのあるところや症状に合わせたストレッチ。経験を元に指導する講師の先生に感動しました。

子育てに寄り添い、悩みを相談できる場所だと思いました。愛育班員としてこの素晴らしい活動に参加が出来てよかったです。



## 7か月児すくすく教室

生後7か月児の教室に何度か参加させていただきました。愛育活動についてお知らせしながら、赤ちゃん、パパ、ママにかかわることができました。赤ちゃんに接したりお母さんとお話をし、赤ちゃんを抱っこさせて貰い、笑った表情が可愛くて癒されました。貴重で幸せな時間を過ごせました。

子育ては楽しいけれど大変です。これからも地域の方々と協力し「声かけ」「見守り」ができればと思います。子供は宝です。大事に見守っていきたいです。



## 愛育班員の手記より

愛育班員となり、知識も経験も浅く何をしても良いのか分からない中で、研修等を通して愛育というものを学びました。市の事業に参加し、泣き出す赤ちゃんをあやしたり抱っこしたり、久しぶりの触れ合いに心が癒されました。もちもちとした感触、ほんわかと温かく、表情豊かに笑う顔のあどけなさ。赤ちゃんに触れたり見ているだけで、幸せを感じます。親子の触れ合う姿や、お母さん同士が打ち解けて楽しそうに交流する姿を見ていると、自然と笑顔になりました。近頃は、小さい子を近所で見かけることも少なくなり、積極的に出でいかないと触れ合う機会がもてなくなっています。愛育会活動を通して、その場を与えてくれているのではないのでしょうか。

愛育会活動は、ささやかで地道な活動かもしれませんが、これからも勇気を出して、声かけをしていきたいです。

